

2015年

携帯サイトへGo!→
携帯で教室便りが見られます



教室だより 10月号

「すいせん図書一覧表」をご活用ください

公文式本市場教室 火・木 3～7時 TEL 186-61-4936(上平方)

横割教室 月・水 3～7時 TEL 61-8891(福島方)

指導者：新妻ゆき子 携帯090-2260-0671

Eメール:yvonne-yukiko@mbi.nifty.com

携帯アドレス:yvonne-1682-yukiko@docomo.ne.jp

ゆきこくもん

検索

ホームページ <http://www.yukiko-kumon.com>

10月27日から「文化の日」を挟んだ11月9日までの2週間は「読書週間」です。

KUMONでは、ひとりでも多くの子どもたちを読書好きに育てたいという願いから、読書へのきっかけを与え、本への興味・関心、そして読書力を高めていけるように、お子さまの現在の読書力に応じて、無理なく、楽しく本の世界に入っていただくためのガイドとして「すいせん図書一覧表」をご用意しております。

「すいせん図書一覧表」は、大人の価値観で選んだ子どもに読ませたい課題図書のリストではありません。古今東西の優れた図書の中から、子どもたちに人気が高く、内容的にも優れている本から650冊を選びすぐったもので、読みやすいものから深い内容の本へと5A～Iの13段階に分け、さらに各段階ごとに50冊の本を配列したものです。難易度は、実際に対象図書の文字数をカウントした上で、低年齢のお子さまにとって難しい抽象語彙が多く含まれているものは、より上位に位置づけています。ですから、お子さまが興味を抱きながら読書（読み聞かせ）をされる最適の一冊を選ばれる際に、非常にお役立ていただけるツールだと思います。教室にご用意しておりますので、ぜひご活用ください。

公文式の創始者・公文 公（くもん とおる）先生の言葉より

“くり返し「聞いて・読んで・書く」から確実に英語力がつく”

数ある言語の中で、日本語は習得が大変だといわれていますが、日本人はよほどのことがない限り、日常生活に困らない日本語力を身につけています。それは生まれてからずっと、身近に日本語がある環境の中で生活しているからです。しかし、英語はこうはいきません。

語学習得のカギの一つは日常生活に組み込むことです。英語を毎日くり返し、語彙を増やすことが上達の早道であり、週1～2回の英会話レッスンや週4回程度の英語の授業だけでは量が足りません。日本に生活している日本人にとって、英語を日常的に話すことは困難です。したがって、“聞く・読む・書く”に頼ることになりますが、“聞く・読む・書く”はプリント学習を媒介にして、容易に毎日続けることができます。子どもが楽しく自習できるようにスモールステップ化された公文式英語は、ほめられながらくり返し学習できるので、学習量の確保も容易です。英語を自分の耳で聞いて、自分の目で読んで、自分の手で書く。このことで、もう一段高い次のステップへ進むことができる英語力が養われるのです。

2015年 10月の学習日

日	月	火	水	木	金	土
				1	2	3
4	5	6	7	8	9	10
11	12 文化の日	13	14	15	16	17
18	19	20	21	22	23	24
25	26	27	28	29	30	31

本市場教室日□

横割教室日△

(注)15日(木)本市場教室研修の為お休みです。

今月の四字熟語

きそうてんがい
奇想天外

ふつうの人は思いつかないような変わった考えのこと。
「第の考えた自由工作のアイディアはあまりにも奇想天外で、実現しなかった。」
「その映画の奇想天外なストーリーに、ぼくはすっかりひきこまれた。」

くもん出版刊「四字熟語カード」より

ゆき子の一言コラム

【第7回】子供の学力を上げる方法

人のせいにしない

子どもが勉強できないことを人や環境のせいにしてしまうことがあります。しかし、それでは本質的には、何も解決しません。そういう親や大人の態度は、子どもにも影響を与え、言い訳ばかりの子どもが育ちます。

少し前の時代なら、言い訳をしようものなら、父親が烈火の如く怒り、鉄拳制裁があった家庭も多かったのです。それはまた、子どもの心をゆがめてしまう、悪しき慣習でした。しかし昨今では、逆の振り戻しが起こっています。

「だって先生の教え方が悪いんだもん」

そんな子ども責任転嫁を聞くやいなや、すぐさま学校や教師に抗議したり、訴えたりするような風潮です。

子どもが先生の悪口を言えば、それをたしなめ諭さなければならないところを、親子して一緒になって、先生の悪口を言います。確かにいろいろな先生がいますし、教え方が悪いという点においては、その通りかも知れません。

しかし、先生のせいにしたところで、勉強はできるようになりませんし、ますます先生との信頼関係は失われしまいます。しかし、そういう状況においても、自分できちんと勉強している子どもはいるのです。

確かに影響力は大きいですが、先生は絶対ではありません。学校が悪い、環境が悪い、友だちが悪い、先生が悪い…というように、できない原因を探そうとすれば、いくらでもあります。しかし、そんな時、ふと思いとどまってください。

「本当はどうなりたいのですか？ 子どもをどう育てたいのですか。子どもにどうなって欲しいのですか？」

子どもができないことの言い訳をしたならば、それをやめさせなければなりません。子どもが安易に人のせいにしたならば、子どもの努力不足を叱らなければなりません。

母親が教師の批判を始めたら、父親はたしなめなければなりません。家庭で、学校や先生の批判を子どもに聞かせてはいけません。

大人が人のせいにしたならば、必ずや子どもは真似をします。自分が努力しないことのへの言い訳にします。人間は、時に、どうしても怠け心が芽生えるからです。

「先生が宿題を出さないから、うちの子どもが勉強しないんです」

「せっかく宿題をやったのだから、ちゃんとコメントを入れてください。子どものやる気がなくなります」

「持ち物一覧表を書いて印刷して配ってくれないから、うちの子は忘れ物をするんです」

「教科書が学校でなくなったんだから、新しいものを準備してください」

勉強は自分です。まわりがどんな状況であれ、人がどうであれ、自分自身が研鑽を積んでゆくものなのです。それを忘れてはいけませんし、そのように子どもに教えてゆかねばなりません。

お休みのときは、電話でも携帯メールでも結構ですので連絡をお願いします。10月分の会費引き落としは9月28日（月）です。よろしくお願いいたします。(注)休会・退会の場合は、引き落としの関係から15日までにお申し出下さい。お迎え電話を教室からする子には必ず電話代10円を持たせてください。